

夏休みの朝、いつもより少し早く図書館が開きます

— 朝7時30分。

いつもならまだ閉まっている図書館の扉が開きます。

宿題を持ってやって来る子。

友達と同じ机を囲む子。

一人で静かに本を読む子。

宿題を終えると、ボードゲームを始める子。

「朝活図書館」は、夏休みの子どもたちが、涼しく安心できる場所で一日を始められるようにと始まりました。



決まった過ごし方はありません。

勉強してもいい。

本を読んでもいい。

友達と遊んでもいい。

少しゆっくり過ごしてもいい。

それぞれの子どもが、自分に合った朝の時間を過ごします。

8月は、朝の図書館に朝ごはんが加わります

7月は、学習や読書を中心とした「朝活図書館」を開催します。

8月25日から28日までの4日間は、朝活図書館と同時に、地域の人たちがつくった朝ごはんを提供する「朝飯図書館」を開催します。



朝ごはんを食べる。

そのまま宿題を始める。

本を読む。

ボードゲームで遊ぶ。

地域の大人と言葉を交わす。

朝飯図書館で大切にしているのは、食事の時間だけではありません。

食べること、学ぶこと、本を読むこと、遊ぶこと、誰かと話すこと。それらを分けずに、一人の子どもの朝としてつなげていきます。

7月 | 朝活図書館

読む 学ぶ 遊ぶ 過ごす



8月 | 朝活図書館+朝飯図書館

食べる 読む 学ぶ 遊ぶ 人と出会う

図書館を朝早く開いたことで、見えてきたこと

朝活図書館を始めたことで見えてきたのは、利用者数だけではありませんでした。

学校が休みになると、生活のリズムが変わりやすいこと。

給食のない日が続くこと。

家や学校とは別に、朝を過ごせる場所があることの意味。

四街道市では、朝食を食べない子どもの割合が、小学5年生で7.7%、中学2年生で8.8%と報告(出典:第二次四街道市食育推進計画)されています。また、夏休みなどの長期休業期間には、食事や生活リズム、子どもの居場所をめぐる課題が表れやすくなります。

そこで、誰でも利用できる図書館に、朝ごはんという新しい時間を重ねました。

朝ごはんを食べたい子。

友達と宿題をしたい子。

静かな場所で本を読みたい子。

家族と、いつもと違う朝を過ごしたい子。

訪れる理由は、一人ひとり異なります。



それぞれの理由で図書館を訪れ、同じ場所で朝の時間を過ごす。そんな風景の中に、食事、読書、学習、遊び、交流の機会が自然に重なっています。

小学5年生

7.7%

中学2年生

8.8%

朝食を食べない子どもの割合

出典: 第二次四街道市食育推進計画

朝ごはんのあとに、一日が続いていく

過去の朝飯図書館では、食事を終えた子どもたちの多くが、そのまま宿題を始めたり、本を読んだり、ボードゲームを楽しんだりしました。



地域の大人と会話をする子。

通常開館後も学習を続ける子。

同じ日に行われていたプレーパークへ向かう子。

食後には、参加者の大半が学習や読書に取り組み、通常開館後も図書館で過ごす子どもの姿がありました。

朝ごはんをきっかけに、生活のリズムが整い、学習や読書、遊び、人との交流へと時間が続いていく。

朝飯図書館がつくっているのは、食事の機会だけではなく、子どもたちが、それぞれのペースで一日を始められる朝そのものです。

参加した子ども・保護者の声

「ここで食べるおにぎりがおいしかった。また来たい」

「夏休みは起きるのが遅かったけれど、早起きできた」

「家では誘惑があって勉強できないけれど、ここでは集中できた」

「人と話すのが得意ではなかったけれど、話しかけてもらえてうれしかった」

「朝ごはんだけでなく、心の栄養ももらえました」

*食事だけでなく、生活リズム、学習、読書、人との交流についての声が寄せられています。

地域の人たちが、それぞれの「できること」を持ち寄ります

朝飯図書館には、図書館職員だけでなく、大学、企業、NPO、地域団体、市民ボランティアなど、さまざまな人が関わります。

この取組は、四街道市、岩渕薬品株式会社、千葉大学予防医学センターが連携して進める「四つ葉プロジェクト」とともに実施しています。

朝早くからおにぎりを握る人。
朝ごはんを手渡す人。
学習や読書を見守る人。
子どもと一緒に遊ぶ人。



今年も昨年に引き続き、地域の企業や専門家による、子どもと保護者の暮らしにつながる短い学びの時間も予定しています。

食べ物をつくる人、時間をともに過ごす人、仕事の中で培った知識を伝える人。それぞれが無理のない形で、自分たちの得意なことを持ち寄ります。

朝飯図書館は、地域にある人、場所、知識、経験が少しずつ重なることで、子どもたちの朝がつくられています。

朝5時から始まる、図書館の朝

過去の開催では、地域のこども食堂に朝5時に集合し、米を炊き、おにぎりを握り、午前7時に図書館へ運びました。



図書館では、朝ごはんを提供する人、子どもたちと交流する人、学習席を案内する人など、それぞれが役割を担いました。

運営には、四つ葉プロジェクトに関わる岩渕薬品株式会社や千葉大学予防医学センターをはじめ、NPO、地域団体、市民ボランティアなど、多くの人が参加しています。

地域の人からは、「また参加したい」「次回も協力したい」といった声も寄せられています。

子どもが朝を過ごせる場所をつくるのが、地域の大人にとっても、自分の時間や経験を誰かのために生かす機会になっています。

今年は、図書館の朝から、まちへ

今年は、四つ葉プロジェクトが中心となり、市内のさまざまな場所や活動を巡る「よつかいどうこどもスタンプラリー」を実施します。

朝活図書館・朝飯図書館も、その対象の一つになります。

対象となるのは、こども食堂をはじめ、朝活図書館・朝飯図書館、図書館でボードゲーム、図書館でプレーパークなどです。

食べる。
読む。
学ぶ。
遊ぶ。
交流する。



それぞれに異なる入口から、子どもたちが地域と出会います。

昨年、こども食堂をつないで実施したスタンプラリーにも、多くの子どもや保護者が参加しました。

図書館を訪れた子が、次はこども食堂へ行く。
こども食堂を訪れた親子が、図書館やプレーパークを知る。

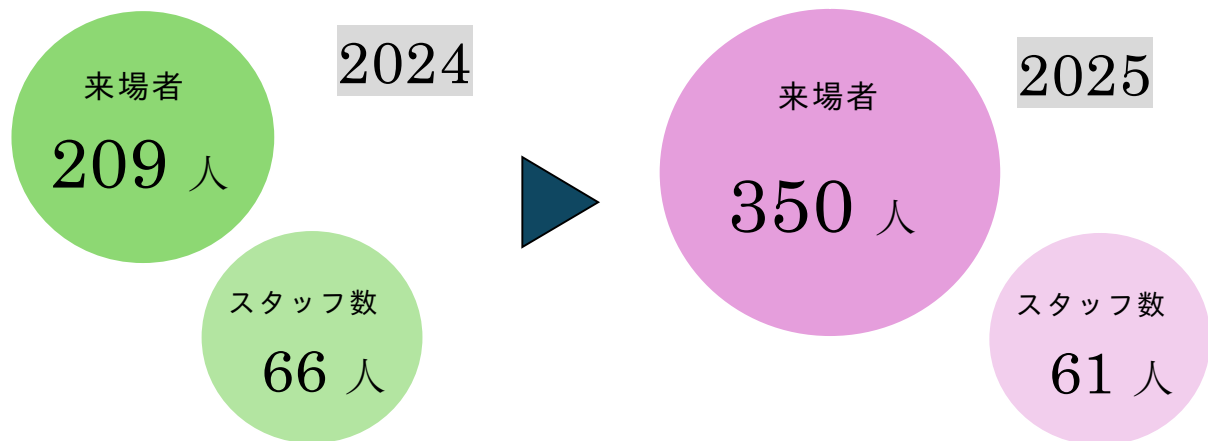
「こんな場所があったんだ」
「今度は、ここにも行ってみよう」
「また会える人がいる」



スタンプを集める楽しさをきっかけに、子どもや保護者が、これまで知らなかった地域の場所や人と出会います。

一つの場所で完結するのではなく、地域にある場所、活動、人を緩やかにつなぎ、子どもたちが自分に合う過ごし方や「また行ける場所」を見つけていく。

朝活図書館・朝飯図書館も、その入口の一つになります。



朝飯図書館来場者等推移

数字の向こうには、一緒に朝ごはんを食べ、本を読み、言葉を交わした一人ひとりの時間があります。